

# 超難関突破し空から宇宙へ 31期同期会でお祝い

## 大西卓哉君(31期生) 宇宙飛行士候補者に!



聖光学院で講演する大西卓哉君

すでにご存知の人も多いかもしれませんが、31期生で元日本空輸(ANA)パイロットの大西卓哉君が、今年二月、国際宇宙ステーション(ISS)に長期滞在する新たな宇宙飛行士候補者に選ばれた。

この聖光学院にとって歴史的快挙のお祝いをかね、去る四月十二日、大西君を特別ゲストとして迎え31期同期会が開催された。

宇宙飛行士の募集として、最終選考者として残った十人が宇宙ステーションに似た施設に閉じ込められて共同生活を送るなど、約二週間にも及ぶ実技試験が行われ、見事、わずか二人という宇宙への座席を確保した。

この超難関を突破し、さぞ喜びで大はしゃぎであろうと思いきや、会場にフィアンセとともに登場した大西君は、いつもと変わらぬニコニコとした様子。さすがは、どんな状況でも動じない精神力が必要とされる選考をくぐり抜けてきただけのことがある。

大西君は今や著名人。そんな大西君と友達である証を、大西君とばかりに、みなこそぞって記念撮影をねだったり、また、選考時のエピソードなど大西君の興味深い話にみな輪になって聞き入っていた。



大西君を囲んで記念撮影

そうこうしているうちに宴はあつという間に時が過ぎ、最後に大西君の今後の予定や抱負などの挨拶があり、みなで胴上げをして「打ち上げ」となった。

これから、宇宙へ向けて厳しい訓練が続くと思っ

が、念願の宇宙飛行士まであと一歩。常に温和で堂々と落ち着いた大西君ならば、きっと日本を代表する宇宙飛行士になると信じて疑いません。

みなで大西君の活躍を応援しています。

なお、31同期会は毎年、年末に定例会を実施しているが、今回は大西君が宇宙飛行に向けての訓練に入る前に、急遽、お祝いを開催させていただいた。

このため、本来は、校友

会を通じ、31期生全員に開催のお知らせをするべきであったが、時間が間に合わず、31期生のメーリングリストにまだ登録されていない人は、笹井か加賀美までぜひ登録をお願いいたします。

笹井 Tomoyuki@sasai.tv  
加賀美 H.kagami@kagami-car.com

## ジャミン・ゼブ聖光祭でライブ 37期仲光甫君がメンバー



熱唱する仲光甫君(左から2番目)

みなさんは、「ジャミン・ゼブ(Jamin Zeb)」というグループをご存知だろうか。

平均身長百八センチ、平均年齢は二十五歳、全員が絶対音感を持ち、四人のうち三人がハーフというイケメン・ヴォーカルグループ、それが「ジャミン・ゼブ」だ。

平成十八年に結成するやいなや人気を殺到し、翌年にはメジャーデビュー。そして、昨年(平成二十年)の三月に東京ドームで行われ、また、松坂大輔選手が開幕投手を務め話題を集めたメジャーリーグ開幕試合、「ポストン・レッドソックス対オークランド・アスレチックス戦」では、開始前のセレモニーで「アメリカ国歌」と「君が代」を斉唱するという大役を任されるなど、近く大ブレイクを予感させる、今、注目のグループだ。

その中の一人、「ステイヴ」こと仲光甫(なかつむ)は、37期生ということで、去る五月二日(土)、第五十回目の聖光祭を記念しゲストライブが開催された。

会場となったラムネホール(講堂)はブレイク寸前のグループを一目見ようと超満員。イケメングループだけあり、観客は生徒の母など中高年の女性が多人数を占め、メンバーが登場すると、そのやや低音がかつた黄色い(?)声援で

## 同期のお店で旧交温める 14期同期会を開催

五月十六日(土)我々14期は同期会を行いました。昨年の二月に卒業後三十年で初めての同期会を開いてから一年余りでしたが、五十名を超える仲間が参加し、昨年と今年でのべ八十名を超える仲間が集まったことになりました。

初回だった昨年は聖光学院の食堂をお借りしました

が、今年は同期の須山君のお店、川崎大師の松月庵で一次会・二次会とも行いました。昨年は三十年振りで、しかも七十名以上が集まったこともあり、大いに盛り上がった反面あまりゆっくり話ができませんでした。今年、今年と同じ松月庵で



同期の須山君のお店、松月庵にて

## 滝之上会ゴルフコンペ



第十五回滝之上会ゴルフコンペが、平成二十一年五月六日に大雨の中、花生カントリークラブにて卒業生中心に五十二名参加して行われました。

競技は新ペリア方式で行い、優勝は4期生で聖光学院国語科教諭の古城光秋生でした。

幹事は、吉永昌生滝之上会会長を中心に、11期生が務めました。

今回は、幹事が13期生に引き継がれますので、皆様どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

おそれなく、これからテレビの画面やBG Mなどに登場する機会がもっと増えてくることであろう。ぜひ、卒業生のみならず、これからは「ジャミン・ゼブ(Jamin Zeb)」に注目して見てほしい。

メンバーの話も聞き取れないほど。また、ラムネホールでの第一部と校庭での野外ライブである第二部に二部構成であったが、途中のメンバーの移動を地響きのごとく追いかける様子は、おぼさまたちのパワーをまざまざと見せつけられたよう。

そして、ライブが始まると、前述の二部にわたり、オリジナル曲はもちろん、洋楽・邦楽のカバー曲など様々なジャンルの曲を二十曲近く披露してくれた。

洋楽はそのネイティブな英語で手のもの。また、軽快なテンポな曲では、そのさわやかで透きとおるような歌声で「癒し」を与えられるかと思えば、「君が代」のような重厚な曲でも、心にずしりと響き渡るように。特に「アメリカ国歌」はそのあまりの素晴らしさに、記者も思わず心に震えを覚えてしまうほどだった。とにかくおすすめ曲だ。

さて、卒業生の仲光さんは、そのプロフィールをグループのホームページで見ると、父が日系アメリカ人、母が日本人で、ミドルネームが「ステイブ」だ。なるほど、これだけで、みなに「ステイブ」と呼ばれていたことがわかった。

途中の話の中で、仲光さんは、学生時代の聖光祭ではごみ拾いなどをやる地味な存在だったのが、こうして聖光祭で歌を披露することができると話していた。

おそれなく、これからテレビの画面やBG Mなどに登場する機会がもっと増えてくることであろう。ぜひ、卒業生のみならず、これからは「ジャミン・ゼブ(Jamin Zeb)」に注目して見てほしい。